

# 市内外19チーム、284人が熱戦

## チームワークを発揮して鯨伏が3位

### 市長旗争奪・少年軟式野球大会



選手宣誓をする外町ビクトリー土井克也主将



鯨伏に決勝点の1点入る

吉岐少年軟式野球連盟(吉岐市長旗争奪会長)主催の「市長旗争奪・少年軟式野球大会」が23日から25日までの3日間、芦辺町、ふれあい広場グラウンドをメイン会場に、旧那賀中学校グラウンド、青嶋球場、郷ノ浦町、大谷グラウンドで開催され、優勝を目指した選手たちの熱い戦いが繰り広げられた。

青少年健全育成の一環として、スポーツを通じて児童の心身鍛錬と、島外からの参加チームとの友情の和を図り、少年野球の技術の向上に努め、相互の親睦を図ることを目的に開催され、今年で9回目となる今大会には、市内の7チームに福岡、佐賀の両県から12チーム、合計19チーム、284人が出場、試合は、ふれあい広場グラウンドでの開

会式で、前大会の優勝チーム、唐津市、外町ビクトリー・土井克也主将の元氣いっばいの選手宣誓のあと、4会場で、3日間わたる熱戦の火ふたが切れて落とされた。

天候に恵まれた最終日は午前9時から3位決定戦、決勝戦が午前11時から、いずれもふれあい広場グラウンドであり、3位決定戦では接戦が優勢した。

野球クラブが対戦、5-2のスコアで凌ぎに成功した。



中原副市長から賞状など手渡される鯨伏

「名将」・吉村明氏が来島、指導

バスケットボール技術講習会

吉岐バスケットボール協会(西村宏章会長)主催の「吉村明氏バスケットボール技術講習会」が23日から25日までの3日間、石田町、スポーツセンターで、本市の吉岐、吉岐商業の両高校に市外から岩館館高校、佐世保商業高校、郷ノ浦、石田、芦辺の3中学校のバスケットボール部員ら延べ約240人が受講して開かれた。

講習会は、市内の同競技の普及と競技力普及を目的に、高校の同競技界のトップをゆく中村学園女子のバスケットボール部を指導、JOCオリンピック協会員、日本バスケットボール強化委員会など務め、「名将」と呼ばれる吉村氏を講師に招き、同バスケットボール部の年間計画(3年)と、U18日本代表候補など、U18日本代表候補など、水上千聖(2年)と、新チーム主将、井上春佳(同)と新チームゲームキャプテンの3選手も参加して行われた。

吉村氏は、2日目に進む講習では、練習などに入る前のストレッチで、

「名將」・吉村明氏が来島、指導

バスケットボール技術講習会

は、どこの筋肉を動かしていいのかなど意識して、その部分をゆすりながら行うとより効果が期待できる。ウォーミングアップには、縄跳びを取り入れ、2x2分30秒間程度、2重、3重跳びも組み合わせて行う。体幹を鍛えるのにもよい。できるだけボールに触れるように心がけ、ボールを扱う感覚を養うことが大切。などと話し、アメリカ、ヨーロッパ、韓国の選手たちが、シュートをする際の体の使い方の違いやシュート後にケガをしない着地の仕方、手首の使い方などについて解りやすく説明、指導した。

また、同大会の団体戦優勝チームと個人戦の優勝選手は来月16日に開催される県中総体新人大会への出場資格が与えられる。大会のおもな成績は次の通り。

◎団体戦  
▽優勝・石田中学校

◎個人戦  
▽男子▽優勝・山川颯太郎(石)▽準優勝・重松和輝(郷)▽3位・大上和人(石)、山川涼太(同)

▽女子▽優勝・豊田玲実▽準優勝・山下真歩▽山口紗英(以上、石田)、竹下藍里(芦)

市内の3校から出場、熱戦

本年度・中学生剣道新人大会

吉岐剣道協会、市中学校体育連盟主催の本年度中学生剣道新人大会がこのほど、郷ノ浦中学校体育館で開催され、郷ノ浦、芦辺、石田の3校が参加、団体戦には郷ノ浦と石田の両校、個人戦は男子15人、女子8人の23人が出場して熱戦を展開した。

また、同大会の団体戦優勝チームと個人戦の優勝選手は来月16日に開催される県中総体新人大会への出場資格が与えられる。大会のおもな成績は次の通り。

◎団体戦  
▽優勝・石田中学校

◎個人戦  
▽男子▽優勝・山川颯太郎(石)▽準優勝・重松和輝(郷)▽3位・大上和人(石)、山川涼太(同)

▽女子▽優勝・豊田玲実▽準優勝・山下真歩▽山口紗英(以上、石田)、竹下藍里(芦)

ダイエー横の特設会場で開催

第7回少年フットサル大会キッズの部

吉岐サッカー協会主催の第7回少年フットサル大会・キッズの部は18日、芦辺町、ダイエー横の特設会場で開催され、子どもたちが元気にボールを追い、ゴールを目指す姿に大きな歓声が湧いた。

主な成績は次の通り。

◎U-8(1~2年生)  
▽1 芦辺パワーズ▽2 勝利ドラゴンズ▽3 レアル石田、渡良良イレブン

◎U-10(3~4年生男子&男女混合)  
▽1 盈科ラブ▽2 石田ファイターズ▽3 かすいドラゴンファイヤーG2、鯨つ子セブン

◎同(3~4年生女子)  
▽1 なでしこ渡良良田河レインボー▽2 筒城つ子3~4年G、那賀小エイト

# 社説

iki shinpou

## いよいよ師走

福岡管区気象台は先日、九州北部地方も、暖冬傾向から平年より寒くなりそうなどとする予報を発表したが、このころようやくカレンダーと季節のイメージがしっくりと来る日が増えてきた。

市内のあちこちでクリスマスに関連したイルミネーションが点灯されクリスマス、歳末商戦に向けて

た飾り付けた装飾やコマリシャルなども見かけられるようになり、今年も「いよいよ」感が感じられるようになってきた。数日前には歳暮や正月用の料理の予約用チラシが、我が家の郵便受けに入っていた。また、先日は友人たちが、忘年会についてあれこれ話していた。

「辰(たつ)」年の今年も早いもので、1か月余りで暮れた。まさに「光陰矢の石」で、毎年、この時季になると感じる事はあるが、時のス

ピドが年を追うごとに加速され、その加速の幅も大きくなってきている。本紙の紙面でもそろそろ師走、年の瀬ムードの高まりが感じられるようになっている。今年も来月12月の4回を残すばかりである。

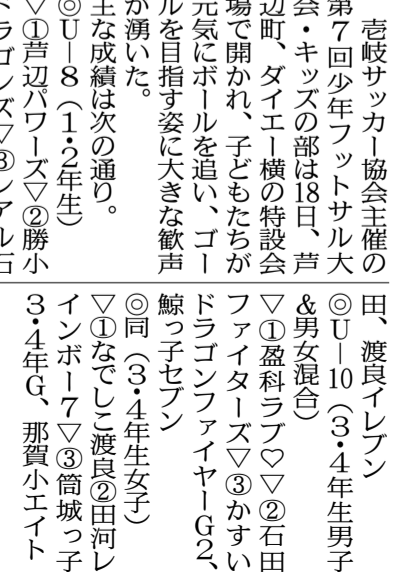
今年の自分の新聞づくりは、昨年の東日本大震災や様々な災害の発生から、「地球を愛しなさい、地球を讀みなさい、平原、谷、丘、海を讚美しなさい、静かな、誰もいない場所で、あなたの魂を休めなさい、なぜなら、すべての生命(いのち)は、地球からの贈り物です。そして生命は、生き物だけでなく、すべてのものに与えられているので」の詩を紹介。

今年は変化が形を表して動き出す年、島を取り巻く社会にあっても、都市と田舎、貧富の差に代表されるような格差が広がる中で、何か新たに前向きなステージへと向かおうとする人々の心の流れ、そうしたものの動きについて、兆しがほんのわずかであっても、感じられる年になるのでは。

その動き、兆しに通じる言葉としては「芽を出す」「点す」「動く」「生む」などがあげられる。これらの言葉は個人や社会にとって、様々なキーワードとなる言葉ではあるが、言葉から行動へ、考えを論じ合う場から、それぞれ



シュートの手首の使い方を指導する吉村氏



元気にボールを追う子どもたち